



令和5年9月1日現在	
世帯数	: 867世帯
人口	: 1526人
男	: 727人
女	: 799人

# 店主のつづがやき 〜オーバーツーリズム〜

「都会の酷暑から逃げて来たはずなのに、まさかこの炎天下で何十分も行列に並ぶとは思いませんでしたよ:」

我が家は中町で創業36年の飲食店を営んでいる。開店当時は、地元の常連客が中心で、36年の後、この街が県下でも有数の観光地となる事は想像もしていなかった。

現在、入店者の9割近くは県内外からの観光客である。とは言え、店の作り上、初めてのお客様とあれこれ会話を楽しむ時間も多し。冒頭の一言は、昼間の市内観光が話題になった際のお客様の声である。

確かに、近頃、コロナ以前とも比べ物にならない数の行列を、あちこちで見かけるようになった。『松本市観光データ分析事業業務レポート(二〇二三年四月一七日時点修正版)』によると、松本市観光

で楽しみだったこと、期待・重視する事は、県内外からの観光客共に「地元の食を楽しむ」が50%前後でトップ。中でも県民以外の観光客の76.3%もが、「そば」を楽しみにしている。

そうだった。私があちこちで見かけた行列も、ランチタイムのそば処にできた長い列であったのだ。

世界的なコロナウイルスの流行に翻弄された約3年間。市街地の中でもそば処が集まるこの辺りは、少ない観光客を取り合うような状況に見えた。「おそば屋さんばかりこんなにあつて、みんな大丈夫かなあ:。」今となつては大きなお世話だが、当時の私は本気で数あるそば処の行く末を憂っていたのである。

けれども、多くの店が工夫を凝らし、耐え抜いた。そしてGWを皮切りに、街の行列

は増々長さを伸ばしていった。

国内でも『オーバーツーリズム』という言葉聞く事が多くなった。訪問客の著しい増加により受忍限度を超え、京都や鎌倉での負の影響は、連日報道もされている。TVの中では、地域住民の生活や自然環境に対する影響に目が行きがちだけれども、観光サービスを提供する側にも、受ける側にも、大きなリスクが存在する。「そばを楽しみに訪れたのに、閉店時間前に売り切れてしまった。」とか、「行列が広がり、近隣住民や他店舗とトラブルになった。」とか、実はそんな話を、身近でもよく聞くようになったのである。

そば処に限った話ではなく、オーバーツーリズムが原因で観光客の満足度が下がれば、観光客自体の減少にも繋がりがかねない。せつかく取り戻した街の賑わいを、持続させてゆくために。質の高い観光を守る、対応策が求められている。



Presented by  
視聴覚委員会

まちかどフォト  
松本ほんぼん俯瞰図



人気店から伸びる行列

# 青山様ぼんぼん回想

私がぼんぼんに出ていた頃は、まだ子供がたくさんいました。当時博労町にあった大兵商店でほおずき提灯を買い求めて、夏の暑い日の夕方、町内表裏通りを「ぼんぼんとて、今日明日ばかり」と歌いながら歩きました。

男の子は青山様、女の子はぼんぼんに分かれ、夏休みの一週間ほど、母に浴衣を着せてもらい、暑い中我慢しながら、初日と最終日には深志神社まで練り歩きました。

今は視聴覚委員として、青山様ぼんぼんの写真を撮って



昭和59年ぼんぼんの様子



昭和38年 青山様の様子

いますが、文化活動自体が少子化と共に減少し、なんだか寂しいと本当に感じています。今年の青山様ぼんぼんは、着付け教室から始まり、Mウイング前の手まり時計から夕方5時に出発、いつものように四柱神社まで練り歩きました。子供達は各々綺麗に着付けられた浴衣を身にまとい、暑さも気にせずに無理なく楽しく歩けたような気がしました。

青山様の杉の葉の匂いとにもいい夕暮れでした。  
(第一地区視聴覚委員長 分部 由里)



昔も今も、子供たちの笑顔は変わりません

んぼんは4日間行われ、暑い盛りに子供たちも保護者も大変でしたが、良い思い出です！

でも、このような形も20年位前から徐々に変わってきて、日数も4日から1日になり、主として会社や商店だけを訪れているようです。市内の他地区では今まで通り行くところが、第一地区は数町会だけで聞いています。寂しいですね。

それで数年前から、第一地区公民館が主催して、1日だけですが区内を賑やかに回るように、子供たちも大勢参加してくれました。松本の伝統行事である青山様ぼんぼんが、ずっと続いていくことを願っています。

「青山様だい  
ワッショイコラシヨ  
ワッショイコラシヨ  
ぼんぼんとても  
今日明日ばかり」

夏休みの夕方になると、あちこちの町会から元気な声が響いてきます。御神輿を担いだ子、提灯を持った子たちが一団となって、各家を一軒ずつ回ります。そんな子供たちを待っている家の人たちも、心付けを用意して下さり、喜んでくれました。青山様ぼ

(第一地区文化委員長 中畑 幸子)



AIという言葉が、事ある毎に出てきます。

AI(人工知能)は、人間が暮らし易くする為に使われなければなりません。使い方を間違えると、とんでもない方向へと突っ走ってしまう恐れがあります。

自然界では、環境変化が早く、農作物・魚がとれなくなる等、変わってきています。

これら品質UP収量増をデータで捉え、最適条件をAIに担ってもらえれば、自然界よりも早く過不足無く、効率良く人工的に生産する時代が来るかも知れません。

また生成AIと呼ばれる領域が有ります。ネット上のデータを収集して、要請に応じた内容を、5〜10秒程度で文章として返してくれます。

報道でのデモンストレーションでは「なるほど」と思えました。しかし複雑な内容の場合、うそが混ざっている可能性が有ります。著作権に抵触する恐れのある場合も有ります。その真偽を確かめる目を養わないと使いこなすのは困難です。

これは皆で努力し、使える日が来ることを願っています。

